

2024年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

11 次の①～④について簡潔に説明せよ。(各3～4行程度)。

①大塚思郷

②平田國亨

③尊王攘夷論

④カーアムリア運動

三、次の史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

属者説を為すものあり、曰く、学者は須らく俗流の表に超然たらざるべからず。学者の品位価値是に存す。夫の学者にして社会国家の実務に交渉するものは、学者の品位と価値とを捨て、好で名利の濁流に投ずる者に非ずや。是れ学問の独立と神聖とを汗瀆するものに非ずや、学者の務めは専念一向其志す所の学に従事して尽日尚ほ足らざるにあり、何の邊ありてか俗流に棹し、俗務に関するを得べきや。夫の身大学教授の職にありて、傍ら行政立法の官吏となり、或は社会實際の運動に加入するものは、学者の天職を知らざる者のみ、学問の独立如何ぞ是の如くにして支持するを得べきと。

吾人はかゝる俗説の今日に行はるゝを悲まずむばあらざる也。学問の独立と云ひ、学者の品位と云ふ、誰か是を希はざらむや。然れども是の如き独立と品位とを保たむが為には、学者は俗流の表に超然たらざるべからざるか。大学教授は政府の官吏となるべからざるか。将た又一切の学者は社会實際の運動に加入すべからざるか。仮りに是説を為すものゝ言によりて一個の学者を想像せよ、畢竟是れ死学者に非ずや。

学びて而して用ふる所以を知らず、知りて而して行ふ所以を覺らず、学者の品位学問の独立は是の如くにして初めて保ち得べきものなるか、然らば則ち品位と独立とは独り死学者に於て望み得べき者なるか。嗚呼天下の学者を誤るものは必ずや是種の俗説ならむかな。畢竟品位独立とは何にぞ、其所信を以て社会を率ひ、其所学を以て蒙昧を導くを外にして何処に其品位と独立とありや。現実世界と隔離し、独善自尊の生活を営まば、其学他の累す所とならざるべし。然れども其存在の意義は何処にある。若し強て是を独立と云はゞ、是れ救滅的独立なり。世界は是の如き学者の生死によりて毫も其利害を感ぜざるなり。凡そ一物生存の価値は其所属団体に貢献する利益の多少に依りて量るべし。吾人は現実世界に関与せざる学者を死学者と叫ぶ、抑々謬れる乎。

《注》 ○属者——近者。昨今。

○汗瀆——けがすこと。

【高山樗牛『時代管見』を一部改変】

(1) 「かゝる俗説」とは具体的にどのような説を指すと考えられるか、史料の内容に即して説明しな
さい (10行程度)。

(2) 著者の高山樗牛が批判している「死学者」とはどのような存在と考えられるか、史料の内容に即し
て説明しなさい (10行程度)。

